

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2271300168		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム徳倉		
所在地	静岡県駿東郡清水町900-1		
自己評価作成日	令和5年11月17日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2271300168-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2271300168-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 12月 7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>私たちは家庭的な雰囲気大切に、自立支援のもと、入居者様が出来ることを見極め、役割を持って生活出来るよう支援させていただいています。 洗濯や食器ふきなど、入居者様同士や職員と一緒にしています。 ホームの飼い猫が入居者様にやすらぎの時間をあたえることもあります。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>食事は利用者に食べたい物を聞き食材を調達し、職員が毎食手作りをしている。利用者の評判もよく、温かい食事の提供で、食欲増進にも繋がっている。食べたい物がすぐに準備でき、時にはテイクアウトを利用して楽しみを創出している。コロナ禍で制限していた対面での職員会議ができるようになり、職員は意見交換が活発にでき、記録はタブレット入力をして周知している。事業所には高齢の猫がいたり、玄関には燕が毎年巣を作り、夏には野菜をプランターで育てるなど利用者の癒しになっている。事業所はコロナ感染を経験したが、法人からマスクや防護服などの支給があり、職員はホテル住まいをし、食事はお弁当対応にしたりと解決に向け団結して乗り切った。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員とも、理念を共有し入居者様に寄り添った介護を心がけています。フロアに理念を貼り、意識するようにしている。	法人の理念に基づいて事業所の目標があり、フロアに掲示している。面談の時に職員に記入してもらい確認している。管理者は職員に常に意識して実践に活かしてもらえるように声かけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類へ移行となりましたが、県内の感染状況などを踏まえると交流の機会はありません。SNSを活用し、ホームの様子を掲載しています。	自治会に加入して、地域の行事を把握している。コロナ前は積極的に行事や活動に参加していたので今後も可能な限り参加する予定である。近くの保育園とは来年度から交流を再開する準備を進めたり、インスタに利用者の写真を掲載し発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料にて、ホームの状況をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月までは書面での開催でしたが、7月からは以前のようにホーム内で開催している。出席者から意見等はありませんが、ご質問に対してはお答えしている。保育園より、来年度から交流の場の依頼があれば予定を組んで下さると。	今年度の7月から対面開催でそれ以前は書面開催で行っていた。参加者は民生委員、家族、町役場と地域包括支援センターの職員、本人、マッサージ師、保育園の園長等で開催前に出欠の確認をし、議事録は送付している。対面になり意見を頂けるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ワクチン接種医などの調整をしたり、様々な場面で連絡を取り合い、協力関係を築いています。	町役場とはコロナ関連での疑問点などを電話で尋ねられる関係性を築いている。包括支援センターからは入居者の紹介がある。管理者は「清水町ショートステイ連絡会」と「高齢者支援ネットワーク連絡調整会議」に参加し他事業所や行政と意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回の研修を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	指針、マニュアルは整備され、職員は全員理解していて、研修でも使用している。委員会は管理者と各フロア2人の5人で、年に4回行っている。研修は年に3回行われ、身体拘束の基本、感情のコントロール等の内容に取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、ホーム内で虐待が行われないように、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に学ぶ機会をもち、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時にご家族様へ十分な説明を行っています。説明時に質問を伺い納得していただけるよう努力をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーションの中から入居者の要望などを伺っています。またご家族様にはお手紙やお電話でお話をしています。	お便りは利用者の日頃の様子を担当職員が記入し、写真を添えて毎月キーパーソンに送付、報告している。家族にはこまめに電話をかけ利用者の生活の要望を聞き、運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍の為、会議の開催は控えている。その代わりに、申し送り時、出退勤時、勤務時などに話を伺い、内容によって反映しています。	朝の申し送りの際に管理者が中心になって、報告と意見交換を行い、欠席者は申し送りノートで確認、周知できるように努めている。今後は全体会議や研修を対面で行っていく予定。管理者は職員が話しやすいような雰囲気作りを心がけ積極的に声かけをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シート、面談等で把握するよう努めています。また、職員がやりたいことなどがあれば実現できるようにサポートしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修への参加、法人内研修などに参加指定いただいています。		

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清水町ネットワーク会議に参加したり、法人内研修に参加し、他事業所の職員との交流の機会があります。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とお話しする機会を設け、ホームでの生活で不安なことや要望を伺い、サービスに反映するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、ご家族様が困っていることや、入居してからどのように生活してほしいかを伺い、関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時にご本人、ご家族様の意向を伺い対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の状態に合わせ、食事席を検討しています。入居者様同士でお手伝いを行っていただけるような配慮をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、お便りや状況に応じ電話連絡などして、出来る限り協力をお願いし、ご本人様を支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会を制限していたこともあり、ご家族様以外の訪問はあまりないですが、面会に来られた時には自室にてゆっくりお話ができるように配慮しています。	コロナウイルスが5類に移行となり、家族や親戚は予約なし、時間の制限なしで訪問を可能にしている。孫や親せきが来所したり、来年度から保育園の交流を再開する予定で、ドライブ計画も実施できるよう準備、関係の継続に努めている。	

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見ながら、必要に応じ職員が間に入り会話をし、孤立しないように支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、ご家族様から問い合わせや相談があったときには、快く応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で、ご本人様の意向を伺っています。	利用者に食べたい物を毎食尋ね、誕生日にはお寿司をテイクアウトしたり、利用者が以前住んでいた近くのお菓子屋さんからおやつを購入したり意向に沿えるように努めている。意思表示が困難な方は、1対1で様子や表情を見て本人の意向や希望を理解するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していた施設職員に話を伺ったり、契約時などに、ご家族様にご本人様の生活歴などをお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態を観察し、細かな変化に気づけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様、主治医等に相談し介護計画書を作成しています。状態に変化があれば、ご家族様に連絡するようにしています。	モニタリングとカンファレンスは更新時にケアマネジャーが申し送りノートや介護日誌を見て関係者に聞き取りや意見を聞いて行っている。それをもとに医師や看護師の意見を取り入れて介護記録を作成し家族に確認してもらい、フロアーの職員全員が把握できるよう心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に記入したり、日々の変化を申し送り等で情報共有をしています。		

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズにできる限り寄り添えるような対応を心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため地域行事には参加できていませんが、安全で豊かな生活を楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の意向を確認し、適切な医療受けられるように支援しています。	入居前のかかりつけ医を受診している利用者は2名で、家族対応と入院設備のある病院より月2回往診を受けている。協力医の往診は月2回だが、利用者によって往診日が異なり、ほぼ毎日医師が来所し体調の相談ができる。訪問看護師も週1回訪問があり、協力医と連携がとれ適切な診察が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で気づいた事や気になる事を看護師へ相談し、医師への報告、受診の検討をし、適切な看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ必要な情報を提供しています。また退院前カンファレンスの参加や退院調整などを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様へ説明し、意向の確認を行っています。また、ご本人の状態に変化があった時には、再度ご家族様へ意向の確認を書面にて行っています。ご家族様、ご本人様のご希望に沿った最後を迎える事ができるよう対応しています。	入居時重度化の説明をし、本人と家族に意向確認をしている。状態に変化があった時には、医師が家族に説明し、事業所側も同席して家族の意向を聞き、今後の対応について話し合い支援に取り組んでいる。職員は家族に寄り添いながら、今までの経験を活かしつつ、看取りの研修も毎年行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内でマニュアルを作成しています。		

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内で防災訓練を行っています。地域の防災訓練はコロナ禍、また感染状況にて参加していません。	防災委員が中心になって訓練の計画をたて、地震から火災の想定で日中と夜間想定で年に2回避難訓練を行っている。消防署も立ち会ってくれる。利用者用のヘルメットや防災頭巾、懐中電灯は部屋へ、職員の分はリビングに準備されている。備品と備蓄はリストがあり定期的に点検している。	連絡網は整備されているが実際の訓練での利用がなく、夜勤者で夜間訓練ができていない職員は早め実施できるよう希望します。近年、線状降水帯などが発生している関係から対応を検討し、長期停電の対策も法人と行えるよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居様の人格を尊重した言葉遣い、声掛けを意識して支援しています。	事業所の目標のひとつである「尊厳」を普段から意識し、職員同士で利用者への言葉遣い、声かけは気をつけ、ふさわしくない時には職員同士、注意し合っている。また、リーダーや管理者は個人的に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、入居者様へ簡単な質問等で自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせてながら、出来ることをしていただきつつ支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や、入浴時の着替えなど、選ぶことができる入居者様には、希望を伺い選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をする前に、入居者様へ食べたいものを伺い提供しています。食材がない時は、後日提供しています。また、食後には食器拭きをお願いしています。	職員は利用者に食べたいものを聞いて、献立を考え調理している。食材は主におうちコープから、利用者と一緒に注文書を見ながら注文、購入している。お誕生日には利用者の好きな物を提供できるよう努めている。現在は食器拭きを中心に出来ることを利用者にも手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様のその日の状態に合わせて対応しています。食事量、水分量を把握し、必要に応じ医師と相談して栄養補助液を処方していただき対応しています。		

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。必要に応じ、仕上げの介助をさせていただき、口腔状態の衛生に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、必要時に声掛け・誘導をしています。トイレに座り排泄することを基本とし、状況によっては二人介助にてトイレに座っていただいています。	個々の排泄パターンを把握して時間や利用者の表情や動きをみてトイレへの声かけ、誘導をしている。日中は2人介助でもトイレ排泄を支援している。自立の利用者は見守り、確認の声かけをしている。夜間はポータブルトイレを使用したり、トイレへ誘導したり、眠りを妨げないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便コントロールをしています。また、起床時の水分摂取、朝食時にヨーグルトの提供をし、自然排便を促すよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴をしていただいています。午前中の入浴が基本となっておりますが、その日の活動やご本人の状況に合わせて午後に入浴する事もあります。重度化した場合には、2人介助で行う事もあります。	週2回、主に午前中に入浴している。現在は強い入浴拒否の利用者はいないが、同性介助を望む利用者がいるので配慮している。入浴出来ない利用者には清拭、シャワー浴の利用者には足浴をしながらと工夫して入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状況に合わせて休まれています。自室で休まれたり、ソファでくつろがれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと、服薬介助を行っています。また、配薬時に薬剤師からも助言をいただくこともあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のできる事、楽しみとしている事をホームでの生活の中に取り入れ、役割を持って頂ける様支援しています。		



静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍より、ホーム付近の散歩や外気浴にできています。徐々に、買い物などにお連れしています。	天候をみて施設の近くを散歩している。外気浴に連れ出すきっかけづくりに、玄関のツバメの巣作りやオクラやトマト作りを見に行こうと声かけしている。最近利用者から「柿田川へ行きたい。」という声が出て、出かける計画や初詣の計画もあり、今後少しずつ外出の機会を増やしていく準備をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かっています。病院へ行かれた時など、ご自身でお支払いをしていただくよう、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればご家族様へお電話をしています。また、かかってきたときにはご本様へ取次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、照明の調整をしています。また、なじみのある歌を流すことで、落ち着いて過ごすように配慮しています。	居間、食堂は窓が多くあり、明るく、室内の清掃、消毒は清掃専門の職員が週5日丁寧に行っている。YouTubeでなじみの曲や歌番組を流し、歌が好きな利用者の気持ちに沿えるようにしている。利用者は好きなところでくつろいでいて、ソファでうたた寝をする姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は、気の合いそうな入居者様となるよう配慮しています。また、食後などソファや自室などで過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の家具等は入居時に、ご自宅で使い慣れたものを持ってきて頂くようお願いしています。また、写真や贈り物などを飾っています。	大きなクローゼットと洗面台が備え付けられ、クローゼットには季節の布団、衣類、オムツが収納され、部屋全体が整理されている。自宅から持参したタンス、テレビも動線を考えて設置され、家族からの誕生日のプレゼントや女性利用者の洗面台には化粧品など、個性のある居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人ができる事を見極め、声掛けなどで自立できるよう支援しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300168		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム徳倉		
所在地	静岡県駿東郡清水町900-1		
自己評価作成日	令和5年11月17日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2271300168-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2271300168-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 12月 7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは家庭的な雰囲気大切に、自立支援のもと、入居者様が出来ることを見極め、役割を持って生活出来るよう支援させていただいています。  
洗濯や食器ふきなど、入居者様同士や職員と一緒にしています。  
ホームの飼い猫が入居者様にやすらぎの時間をあたえることもあります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員とも、理念を共有し入居者様に寄り添った介護を心がけています。フロアに理念を貼り、意識するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類へ移行となりましたが、県内の感染状況などを踏まえると交流の機会はありません。SNSを活用し、ホームの様子を掲載しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料にて、ホームの状況をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月までは書面での開催でしたが、7月からは以前のようにホーム内で開催している。出席者から意見等はありませんが、ご質問に対してはお答えしている。保育園より、来年度から交流の場の依頼があれば予定を組んで下さると。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ワクチン接種医などの調整をしたり、様々な場面で連絡を取り合い、協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回の研修を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、ホーム内で虐待が行われないように、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に学ぶ機会をもち、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時にご家族様へ十分な説明を行っています。説明時に質問を伺い納得していただけるよう努力をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーションの中から入居者の要望などを伺っています。またご家族様にはお手紙やお電話でお話をしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍の為、会議の開催は控えている。その代わりに、申し送り時、出退勤時、勤務時などに話を伺い、内容によって反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シート、面談等で把握するよう努めています。また、職員がやりたいことなどがあれば実現できるようにサポートしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修への参加、法人内研修などに参加指定いただいています。		

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清水町ネットワーク会議に参加したり、法人内研修に参加し、他事業所の職員との交流の機会があります。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とお話しする機会を設け、ホームでの生活で不安なことや要望を伺い、サービスに反映するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、ご家族様が困っていることや、入居してからどのように生活してほしいかを伺い、関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時にご本人、ご家族様の意向を伺い対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の状態に合わせ、食事席を検討しています。入居者様同士でお手伝いを行っていただけるような配慮をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、お便りや状況に応じ電話連絡などして、出来る限り協力をお願いし、ご本人様を支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会を制限していたこともあり、ご家族様以外の訪問はあまりないですが、面会に来られた時には自室にてゆっくりお話ができるように配慮しています。		

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見ながら、必要に応じ職員が間に入り会話をし、孤立しないように支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、ご家族様から問い合わせや相談があったときには、快く応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で、ご本人様の意向を伺っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していた施設職員に話を伺ったり、契約時などに、ご家族様にご本人様の生活歴などをお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態を観察し、細かな変化に気づけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様、主治医等に相談し介護計画書を作成しています。状態に変化があれば、ご家族様に連絡するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に記入したり、日々の変化を申し送り等で情報共有をしています。		

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズにできる限り寄り添えるような対応を心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため地域行事には参加できていませんが、安全で豊かな生活を楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の意向を確認し、適切な医療受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で気づいた事や気になる事を看護師へ相談し、医師への報告、受診の検討をし、適切な看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ必要な情報を提供しています。また退院前カンファレンスの参加や退院調整などを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様へ説明し、意向の確認を行っています。また、ご本人の状態に変化があった時には、再度ご家族様へ意向の確認を画面にて行っています。ご家族様、ご本人様のご希望に沿った最後を迎える事ができるよう対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内でマニュアルを作成しています。		

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内で防災訓練を行っています。地域の防災訓練はコロナ禍、また感染状況にて参加していません。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居様の人格を尊重した言葉遣い、声掛けを意識して支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、入居者様へ簡単な質問等で自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居様のペースに合わせてながら、出来ることをしていただきつつ支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や、入浴時の着替えなど、選ぶことができる入居者様には、希望を伺い選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をする前に、入居者様へ食べたいものを伺い提供しています。食材がない時は、後日提供しています。また、食後には食器拭きをお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居様のその日の状態に合わせて対応しています。食事量、水分量を把握し、必要に応じ医師と相談して栄養補助液を処方していただき対応しています。		



静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。必要に応じ、仕上げの介助をさせていただき、口腔状態の衛生に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、必要時に声掛け・誘導をしています。トイレに座り排泄することを基本とし、状況によっては二人介助にてトイレに座っていただいています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便コントロールをしています。また、起床時の水分摂取、朝食時にヨーグルトの提供をし、自然排便を促すよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴をしていただいています。午前中での入浴が基本となっていますが、その日の活動やご本人の状況に合わせて午後に入浴する事もあります。重度化した場合には、2人介助で行う事もあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態に合わせて休まれています。自室で休まれたり、ソファでくつろがれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと、服薬介助を行っています。また、配薬時に薬剤師からも助言をいただくこともあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のできる事、楽しみとしている事をホームでの生活の中に取り入れ、役割を持って頂ける様支援しています。		

静岡県(グループホーム徳倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍より、ホーム付近の散歩や外気浴にできています。徐々に、買い物などにお連れしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かっています。病院へ行かれた時など、ご自身でお支払いをしていただくよう、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればご家族様へお電話をしています。また、かかってきたときにはご本様へ取次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、照明の調整をしています。また、なじみのある歌を流すことで、落ち着いて過ごすように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は、気の合いそうな入居者様となるよう配慮しています。また、食後などソファや自室などで過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の家具等は入居時に、ご自宅で使い慣れたものを持ってきて頂くようお願いしています。また、写真や贈り物などを飾っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人ができる事を見極め、声掛けなどで自立できるよう支援しています。		